

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-134	A-141	13-099	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)			
<p>Testing the effects of e-mailed personalized feedback on risky alcohol use among college students.</p> <p>大学生におけるリスクのある飲酒についての E メールによる個別化フィードバックの効果検証</p>			
執筆者			
Bryant ZE, Henslee AM, Correia CJ.			
掲載誌			
Addict Behav. 2013 Oct;38(10):2563-7. doi: 10.1016/j.addbeh.2013.06.007.			
キーワード			PMID
アルコール、大学生、個別フィードバック、E メール			23811059
要 旨			
目的：			
<p>大学生の飲酒者に介入するためインターネットを利用する研究が増えているが、この研究は、理論的あるいは経験的に確立した個別化したフィードバック手法を、大学生への E メールを通じた実施した初めての調査である。</p>			
方法：			
<p>ベースラインおよび介入後 6 週間において、飲酒、関連事象および仲間意識の調査が完了した学生 191 名を対象とした。学生たちはランダムに個別化したフィードバックと共通のフィードバックのどちらかを E メールで受け取るよう割り付けた。</p>			
結果：			
<p>個別化されたフィードバックを受けた学生は、介入後調査日、前の 30 日において、週の飲酒日数だけでなく飲酒量も有意に少なかった。また、仲間に飲酒しようと誘われる日数や、飲酒の機会毎に飲むように勧められる飲酒の量が有意に減少していたことも明らかになった。</p>			
結論：			
<p>E メールによる個別化されたフィードバックは学生が飲み方や節酒に気をつけるようになるのに役立つということが明らかになった。さらに、E メールによる個別化フィードバックは大学生の飲酒者に介入するにあたって、費用対効果的にも有効な方法であるだろう。</p>			